

議 事 録

会議の名称	第2回岩倉市部活動検討懇談会
開催日時	令和5年10月24日(火)午後2時00分から午後4時05分まで
開催場所	岩倉市役所第2・3委員会室
出席者(欠席者)	有尾幸市会長 今井秀明副会長 櫻井智委員 大藪かおり委員 七澤秀一郎委員 高岡良治委員 橋詰直樹委員 櫻井伸賢委員 宮木康夫委員(武藤栄司委員) 事務局：教育長、教育子ども未来部長、学校教育課長、管理指導主事、 指導主事、学校教育グループ長、学校教育グループ主任 生涯学習課長、生涯学習グループ長、スポーツグループ長、社 会教育指導員、社会体育指導員
会議の議題	(1) 学校・地域の実情把握について (2) 部活動指導員の設置について (3) 本市の部活動のあり方について(自由討議) (4) 生徒・保護者への地域連携等に関する情報提供について
議事録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 <input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
会議に提出された資料の名称	資料1 第1回議事録まとめ 資料2 中学生の受け入れ状況に関するアンケート結果 資料3 中学生部活動の地域連携に関するアンケート結果 資料4 県内市の部活動の地域移行について 資料5 部活動指導員設置要綱(案)
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0 人
その他の事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)
<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>教育長：第1回岩倉市部活動検討懇談会では、それぞれの立場から意見をもらいました。</p> <p>学生の頃、イギリスにホームステイしたことがあります。イギリスではスポーツ、文化活動の環境が日本とは違っており、学校には校舎があるだけで、運動場、体育館、プールはありませんでした。地域の公共施設では様々なスポーツを行えるよう、インストラクターが設置され、シャワーの利用や運動用品の貸出しが安価で利用可能な環境にありました。</p>

イギリスではスポーツや文化が学校主体ではなく、地域に根付いた活動となっているのが伝統のスタイルで、今の日本が目指している部活動の地域移行は欧米がモデルとなっていると思います、日本とは文化が違うため、欧米をモデルとして推進しても擦り合わせが必要となります。他自治体で大学、スポーツ団体の活用例など様々な事例はありますが、直接、岩倉市に当てはめることができないものばかりです。

今の子どもたちは恵まれた環境で部活動を行っていますが、これは持続可能な状況ではないため地域移行・地域連携を進めていくこととなります。いち早く土日の部活動を学校から切り離れた自治体では、平日の部活動について試合や発表の機会を持たないために生徒のモチベーションが低下するという困難に直面しています。

子どもの視点を大切にして地域移行・地域連携を進めていきたい。市内全ての中学生のやってみたいに込められる環境づくりをするというのは、大変なことだとは思いますが、理想はそこだと思っています。

多様な地域で多様な世代とともに多様な文化、芸術とスポーツ活動への参加が可能な環境づくりを目指してあらゆるものを模索して、スポーツ、文化ができるまちづくりをしていきたいというふうに考えています。

活発な議論をよろしくをお願いします。

3 説明事項

学校教育グループ長：本日の会議は原則として公開としております。要点整理を行い委員の皆様にご確認をいただいた後、ホームページへ掲載します。

4 議題（１）学校・地域の実情把握について

①地域の受け皿について

②地域人材

事務局：資料２、資料３に基づき説明

副会長：指導できる場所はどこを想定していますか。

事務局：アンケートは指導者についてのみで、場所までは質問していません。

③中学生の意見

④教員の意見

会長：中学生の意見及び教員の意見について両中学校でアンケートを実施していただきましたので、その結果を含めて両中学校より説明をお願いいたします。

委員：岩倉中学校では生徒と教員にアンケートを行いました。

教員の結果としては、地域移行に向けて解決すべき大きな課題としては、「人材（指導者・活動を運

営する人など)の確保」、「受け皿となる団体等の整備」、「生徒・保護者の理解」が挙げられています。兼職兼業については、「兼職兼業の許可を得て、自身が指導に関わりたい」が13人、「兼職兼業を行うかどうか、悩んでいる」が18人で、自分自身が指導に関わりたいことを選択した人が希望する指導の地域は13人とも学校が所在する地域でした。

生徒の結果としては、部活動に所属している目的は「友達と楽しく活動するため」、「技術や体力を向上させるため」が多く、悩んだことや困ったことは、「特にない」が最も多く、それ以外では「勉強との両立ができない」、「練習時間が多い」という回答でした。部活動の時間が短くなった場合の意見は、「友達と遊びたい」が最も多く、部活動や地域のスポーツ・文化活動についてどのような条件であれば行いたいかを聞いたところ、「活動時間がほどよい」とか、「指導が優しく丁寧」が多いという結果でした。

全体として、「程よい時間で友達とよい思い出を作りながらやっていきたい」という傾向が見られました。

会長：アンケート結果を見て、忌憚のない感想をいただきたい。特にPTAの委員からの意見があればと思います。

委員：生徒のアンケート結果で、部活動の時間が短くなった場合について、「テレビ・ゲーム・趣味にあてたい」とあるが、親としては家にこもらず外に出かけてほしい。

会長：教員のアンケート結果で、校長の委員、教員の委員からの意見があればと思います。

委員：予想どおりの結果であり、驚く数字ではありません。教員として働き方改革を進めたいが、直ちに部活動をなくすというのは、生徒たちにとって望ましくないと考えています。

委員：兼職兼業を悩んでいる職員もそこそこいて、部活動や指導が好きで多いことも実感しました。

委員：教員も働き方改革を進めてほしいという気持ちは強くあります。土日が部活動で奪われているという意識はあるが、直ちに部活動をなくしたい訳でもなく、真剣に考えたいと思っています。

岩倉中学校では9月から部活動改革に向けて動いています。10月2日には生徒向けに、10月12日には教員向けに部活動改革の話をしました。

地域移行に反対している教員もいますので、持続可能にしていくためには、今取り組まなければいけないこと、これまで取り組んできたことを説明し、段階的な地域移行に向けてみんなで話し合っています。

ステップ1として令和5年度は生徒、教員、PTA、コミュニティ・スクール準備委員会委員、学校評議委員の意見をもらい、ステップ2として令和6年度は地域との連携を進め、現状を知ってもらいたいと考えています。ステップ3の令和7年度はまだ先が見えていないので未定です。

生徒たちには課題として選択肢が少ないとか、多様性や少子化の問題、教員の働き方のことを説明し、自分たちの弟や妹がより良いスポーツや文化の環境ができるように考えていきたいと思いますという投げ掛けをしました。

今参加している大会も整理しないと土日は働き詰めになってしまうので、考えていく必要があると思っています。

地域移行は難しい課題ですが、誰かがやってくれるのを待っているだけでは変わらないので、この推進期間の3年間でみんなが本気になって、いい知恵を出してやっていきたい。やっていかなければ、生徒や教員のためにもならないという思いで進めています。

委員：部活動地域移行部会を立ち上げてアンケートを行い、それを受けて全職員で会議を行いました。

グループ会議をして様々な意見が出ましたが、大半は働き方改革の方向に流れていました。

職員のアンケートにおいて、部活動で負担に感じるのは「勤務時間を超えるので帰宅が遅くなる」ことや、「休日の指導や引率をすること」でした。

部活動の方針の変更として、陸上・駅伝部は地域移行を希望すること、部活動の終了時間は日課を見直し、授業後1時間として勤務時間内に実施すること、平日の部活動を月、木曜日休みとすることです。また、新たな案では、日没とは関係なく活動時間を授業後1時間までとし、冬場は日没の関係から自転車通学を可とし、各部活の顧問が2～3人体制なので指導をローテーションするという話が出ています。

今後の課題として、子どもたちに部活動を通して身に付けさせたい力はいくつもあるため、今後は顧問のローテーションや、保護者の部活動見守り的なものが導入されることも考えられます。子どもたちが自分たちで部活動のメニューを考え実施していくことを想定すると、南部中学校では部活動地域移行部会を通して、顧問全員が子どもたちの育成について共通理解をする必要があると考えています。

地域移行の課題についてのアンケート結果では、「人材」が1位でした。

子どもたちに全校放送をしながらアンケートを実施しましたが、「教員って大変ですね。」とか、「岩倉中学校に僕らは吸収されるんですね。」といった当事者感のない雰囲気でしたので、子どもたちの代表を決めながら細かくやっていかないといけないと感じました。

会長：地域移行・地域連携の用語の確認を事務局からお願いします。

事務局：地域移行とは、これまで学校が主体となってきた部活動を、地域が主体となって活動することです。

地域連携とは、学校の部活動において部活動指導員などを活用することや、部員が少ない学校では複数の学校で合同練習を行うことです。

議題（2）部活動指導員の設置について

①県内市の部活動の地域移行

②部活動指導員設置要綱（案）

会長： 県内市の部活動の状況と、部活動指導員の設置について事務局から説明をお願いします。

事務局： 資料4に基づき説明

会長： 岡崎市はロードマップを丁寧に作っているように見えますが、これは市の規模や財政状況によるものですか。また、要綱（案）では部活動指導員を会計年度任用職員として雇用となっています。兼職兼業の場合に勤務先の規定による活動内容の制限や、研修の有無はどのように想定していますか。

委員： 教員の不安として、地域の方との連携がうまくできるのか。人柄を含めて不安となることが多いため、研修も要綱に記載していただきたい。校長が主語となっている部分については、学校が色々やるということですか。今後は中心となる母体が発生して研修などを考えていくものなのでしょうか。

3条の1～10は教員が負担だと思っている部分だが、部活動指導員に任せて継続できる見込みかどうかについても不安に感じます。

事務局： 他市町の地域移行については、母体となる団体が地域にあれば依頼し、拡大していくものだと考えています。

企業の方の兼職兼業については、各々事情もあるため、企業が認めなければ部活動指導員にはなれないと考えています。部活動サポーター制度は継続するため、兼職兼業が無理であれば部活動サポーター制度を利用してもらうことを考えています。

部活動指導員の研修については、任用の条件で研修の必要がない方を雇用していくことを考えています。

副会長： 今の部活動を見学できると参加の判断がしやすいと思います。

委員： 指導してもよいという方が出たときに、この内容だと身構えられると思います。いきなり要綱を見せられて契約となると躊躇する可能性があります。十分な技能を持っている方でも、教員相当の能力を要求されると思われると逃げられます。お願いするときには見学等、状況確認をしてもらうことを前提として、入り口が簡単な方が広がると思います。

委員： 他自治体では懇談会や、ワーキンググループといった専門チームの立ち上げをしていますか。

事務局： 地域資源がないところでは立ち上げていると思われれます。各団体でプロジェクトを組んでいるかは把握していません。

教育長： 兼職兼業の教員は研修が不要だと思いますが、外部の方は研修が必要となるため、要綱上示す必要はあると思います。研修内容は重要となります。

委員：学校はガイドラインを設定して1日3時間の範囲で部活動を行っています。地域の方が本人の都合で1日6時間、7時間と活動するとトラブルになるので、要綱内にガイドラインの表記をして欲しいです。

事務局：外部の方でも学校のガイドラインは守ってもらう必要があると認識しています。要綱では第5条で勤務時間等を設定しており、ガイドラインに合わせる形になります。

委員：会計年度任用職員を雇用する際の説明を校長ではなく、市で行って欲しいです。雇用母体が学校のままでは学校の作業量は変わりません。

移行期なので学校が関わっていますが、地域部活動にするのであれば学校が主ではなく、市やNPOが研修などをする形として欲しいです。

会長：資料4をみると、地域移行の主体が学校教育課から生涯学習課へ代わる市がいくつかあります。NPOについても、地域移行が進むことで学校という枠組みから地域という枠組みに広がっていくものであり、そういう自治体が増えているのだと心強く思いました。こういう枠組みを進めていくことで地域移行の趣旨に合った形になるのではないかと考えています。

議題（3）部活動指導員の設置について

①学校、保護者、地域の思い

②休日の部活動

③平日の部活動

会長：地域の方から、分からないことや方向性について意見ををお願いします。可能であれば、部活動の地域移行・地域連携としていくために何から始め、どこに向かっていくのかにも触れていただけたらと思います。

委員：ゴールが見えていないところをみんなで模索しているところだと思いますが、市民吹奏楽団としてできることを3パターン考えています。

1つ目は、学校毎に休日に教員がいなくとも指導する形式です。

2つ目は、岩倉中学校と南部中学校の両校合同で演奏練習することです。各学校1台しかない楽器などでは切磋琢磨できます。

3つ目は、市民吹奏楽団に生徒が来ることです。毎週土曜日の夜に練習をしているため、施設を確保して、両校から集まって活動し、合同で団体を作り発表会やコンクールに参加します。合同で参加できるように変更されている大会は増えています。活動したい生徒がいれば、夜の大人の部に参加してもよいですし、卒業後に加入してもらってもよいです。

以上3つを柱としている。吹奏楽部に限っての話ですが、同様にするのであればモデルケースにしても構いません。

教員の異動、転任してきた教員の意欲によって部活動が不安定になるのは避けたいと思っています。

委員：方向性として、学校部活動から、地域部活動に移行すべきだと考えています。顧問が変わっても、今の3パターンのどれかで進めることができるため、令和7年度以降の入学生に説明して、進めていくことができると思います。

副会長：モデルを決めて進めていく必要があると思います。様々な選択肢を子どもたちに用意してあげたい。

会長：運動部のモデルケースは何かありますか。

委員：柔道部は毎月土日のどちらかは岩倉中学校に出向いて合同練習をしています。可能であれば2校合同で大会に出てみることも学校部活動が地域に移行する準備になるのではと思います。

委員：柔道部がモデルになればと考えています、両校及び地域にも指導者がいます。

サッカーも地域の指導者の顔が浮かぶのでできるのではないかと考えています。

駅伝、陸上も両方の学校に部活動がなく、生涯学習課が中心となって愛知駅伝等に参加しているため、シーズンものとして実施できるものがあってもよいと思います。

会長：考えていくうちにいろいろ出てくると思います。農業クラブなども可能性があるのではと思います。

委員：モデルケースについて、豊田市は既に3年実施しているので、参考にしてはどうでしょうか。

外から見ていると中学と高校の部活の違いがよく分かりません。中学では働き方改革という話をよく聞きますが、高校では全然聞きません。

高校の部活はもっと盛んに行っているのだからいったい何が違うのか、高校の働き方が違うのであればそういったことも参考にできるのではないかと考えました。

ゴールが全然見えていませんでしたが、先程の櫻井校長の意見でやっと分かりかけてきました。具体的にどの部からという話があったが、私は野球に関わっているため、野球で関わりたい人は思い浮かびます。陸上の経験もありますので、そちらも機会があれば関わりたい気持ちもあります。

委員：県内市の状況を見る限り、各自治体で終点が違うと思われるので、学校の教員が地域を異動した際に、別の地区で違う状況になった場合に困るのではないのでしょうか。

全てを統一する必要はないと思いますが、近隣である程度の統一感が必要なのではないかと考えます。

会長：学校からも意見ををお願いします。

委員：岩倉中学校が提出した資料の最後のページの図は、教員間での話し合い結果のグラフィックレコーディングです。部活動は子どもたちのものであるという前提で話し合いをしました。

子どもたちの選択肢を増やすという案が出ました。楽しさを求めることも、より高いレベルで学ぶことも希望としてありますので、その立場によって学校での活動を減らして自由に過ごすことができたと思います。

子どもたちの1日の時間というのを、我々がどのように考えればよいのかを子どもたちと相談していくために、アンケートが重要になると思っています。

また、人材バンクがあるのかどうかは知りたいと考えています。

事務局：地域人材の把握を兼ねてアンケートを行い、個人として関わってくださる方をまとめました。それを学校に情報提供することで人材バンクとなると考えています。

委員：モデル活動を決めて始めていきたいと思っています。

駅伝は子どもたちが主体として活動して結果を出しました。我々が主導ではなく、サポートになれる仕組みづくりをしたいなと思っています。

委員：意見を聞いている中で、ゴールが見えていないという意見が多く、自分も悩んでおりゴールが見えてきません。

岩倉市は今年度末までにロードマップをつくるのかなと思っています。3年間の推進期間で作業部会を設置して進めたいと思っています。

学校では温度差があり、休日は大会しか出ない教員もいるため喫緊の課題だと思っています。これまで外部指導者を学校で探していましたが、今回の人材バンクでより選択肢が増えればと思います。

アンケート結果を元に教員にデータを見せて話し合わせ、子どもたちには今までどおりができないので工夫していきたいと伝えたいと考えています。

次回までに岩倉市が何をできるのか提示して欲しいです。

会長：全体を通して意見があればをお願いします。

教育長：ワーキンググループを作りましょうか。

アンケートで協力いただけそうな方のデータが集まったので、まずはサポーターや外部指導員を増やして顧問と協働していき、部活動をどの段階で地域に移行するかは個別の判断になるため、学校のタイミングを見計らうことになると思います。

各学校からの教員と、教育委員会から指導主事、生涯学習課からも一人出すことで、学校のニーズを拾って生涯学習課の把握している地域人材を紹介するなど、ワーキンググループを作り、4月からモデルケースを実施してはどうかと思います。

会長：学校側としてはどうでしょうか。

委員：南部中学校内でも部活動地域移行についてプロジェクトチームを作っています。そのワーキンググループで学校と地域をマッチングするのであれば、関連していくことができると感じています。

教育長：岩倉中学校と南部中学校のそれぞれにプロジェクトチームがあるのであれば、個別と合同のどちらがいいですか。

委員：吹奏楽部は先程の意見で道が見えた気がしますが、部活動の顧問に対して今後の方向性を説明する必要があると思っています。

モデルケースとして吹奏楽部、柔道部を進めていくのであれば、どのように地域の人を絡め、持続可能としていくのか、それを個別とするか合同とするのかを含めて検討していきたいと思います。

委員：目の前で断られたら困るので、アンケートを参考意見として、教員の意向を確認して欲しいです。

教育長：吹奏楽も具体的に行うには課題が多く、擦り合わせが必要となりますので学校関係者がいる必要があります。事務局からの提案で申し訳ないが、ワーキンググループを設置していきましょう。

委員：これまでの外部指導員は学校関係の人脈のみでしたが、今後は地域移行により人材バンクがあるとして、どの程度の人数を見込んでいますか。

事務局：部活動指導員については、岩倉中学校と南部中学校で1人ずつ、2人分の予算を組んでいます。

教育長：来年度の部活動指導員は教員出身者を想定しています。

委員：地域連携というのであれば、予算を付けてください。

事務局：部活動指導員の予算に加えて、部活動サポーターの予算も増額を見込んでいます。

委員：ロードマップは、令和6年度はいくら、令和7年度はいくらといった予算を含めて作成して欲しいです。

教育長：国が言うようには進まないという反対意見の中で、集中期間から推進期間となったため、3年では完結はできないとみえています。

委員：完結するとは思っていませんが、3年間でどこまで進めるのかが見えてきません。

教育長：ワーキンググループでモデルケースを作成し、年度毎に段階を踏んでいくという方向性を示すことはできても、到達目標を作ることはできないと考えています。

委員：地域移行が到達目標ではないのですか。

教育長：完全な地域移行は実施主体が学校以外になる必要があります。その実施主体となる団体が岩倉市にはないため、差しあたり教育委員会で行いますが、最終的にはどこかに業務委託することになると考えています。どの時点でどこに委託するのが適切かというのはモデルケースや具体案の進み具合によって見えてくるものだと思います。

会長：部活動の主体は学校から離れていくということは共通の認識にできたと思います。

議題（4）生徒・保護者への地域連携等に関する情報提供について

事務局：イマチャレアンケートを10月27日金曜日まで実施中です。現段階の状況をお知らせします。保護者の8割は、教員が無給で部活動の対応をしていることを知っていました。子どもは6割くらいが知っていました。7割近くの保護者は地域移行に関わりたくないとのことで、中学校が終わった後に子どもの面倒を1、2時間見てもらえるという意識があるのかと感じています。

関わっていききたいという保護者の中では、5割近くが協力したいという意見のため、やはり協力を進めていく必要があると思います。生徒主体で行わせたいという意見も8割くらいありました。

教員からも63名の回答がありました。

活動量については、教員及び保護者のうち、5割は現状で満足していますが、保護者の3割は増やしたいが、教員の3割が減らしたいという結果でした。保護者の方との擦り合わせをしてく必要があると思います。

小学校5、6年生からは900名近くの回答がありました。

中学生になったらやりたい部活動としては、バドミントン、釣り、ダンスという回答が多く、一方で野球やバスケットボール、サッカーなどメジャーなスポーツは興味があれば小学生の時点で既に少年野球などに参加していると思われます。

メジャー化しているスポーツを厳しくやりたくはないけれども、体を動かしたいとか、友達と楽しくしたいという希望があることを考える必要があります。今回のアンケート結果だとバドミントンは地域団体から断られており、マッチングできていません。こういったことを擦り合わせていく必要があります。みんなが本気でやらないと3年どころか10年かかっても終わらないと思います。

実働部隊がないと進みませんし、行政だけでも足りませんので、学校の教員の力を借りる必要があると思います。

委員：地域移行まで10年、20年かかるという話がありましたが、そういうスタンスでよいのでしょうか、令和7年度というゴールがあるのであれば、そこに向かって最大限動いていくことが大事だと思います。

地域との連携も紙やアンケートだけでは熱意が伝わらないと思います。地域、行政、学校の温度差をなくし、地域で子どもを育てていく一環としたい思います。

教育長：意見ありがとうございます。コミュニティ・スクールでも進めていきたいと思っています。

委員：当事者は、今の小学生になります。中学校だけでは小学生やその保護者への情報提供等周知を図ることが難しいので行政の力をお借りしたいです。

5 その他

会長：その他については事務局へ進行をもどします。

事務局：その他はありません。一緒になって地域移行・地域連携を進めていきたいと思っていますので、よろしく願います。次回、第3回は2月頃の予定です。ありがとうございました。